Konica

ご使用前に必ず
お読みください。

使用説明書

各部の名称

撮影表示パネル／
フィルムカウンター
パワースイッチ
ズームレバー
シャッターボタン
リモコン受信部
ストラップ取付部
赤目軽減ランプ
(セルフタイマーランプ)
測光窓
モード切替えスイッチ
途中巻き戻しスイッチ
ファインダー窓
フラッシュ
オートフォーカス窓
レンズ／レンズカバー

緑ランプ

ファインダー接眼窓

フィルム確認窓

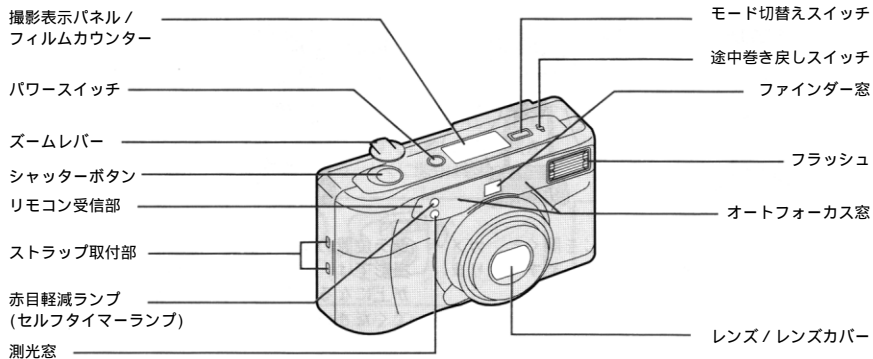
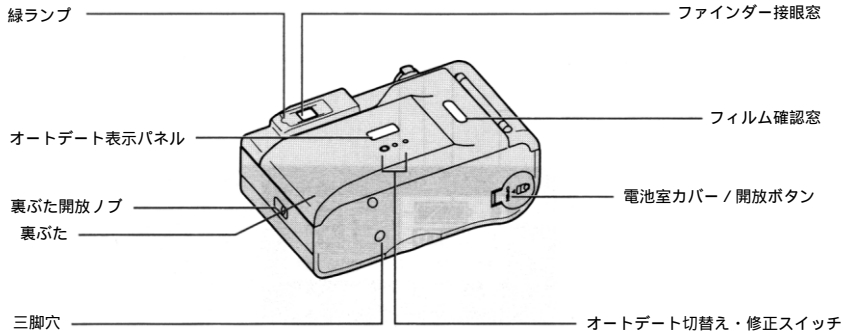
オートデート表示パネル

電池室カバー／開放ボタン

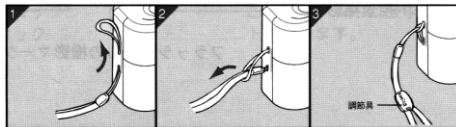
裏ぶた開放ノブ

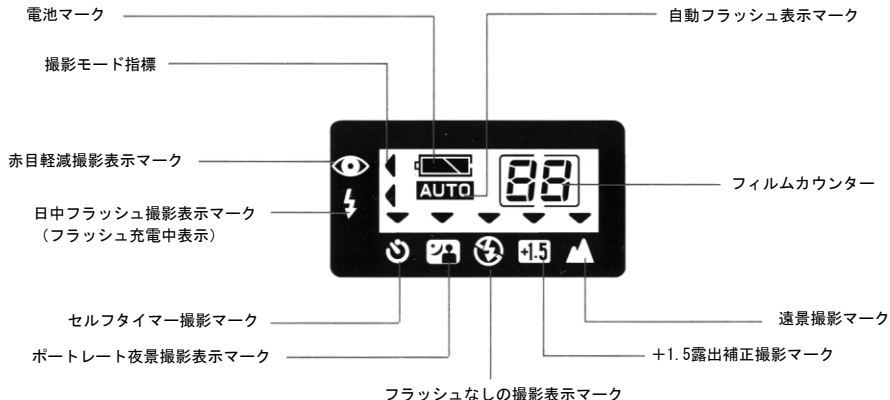
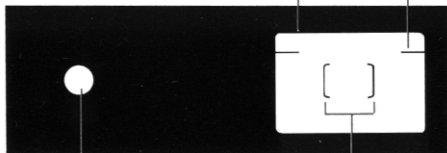
裏ぶた

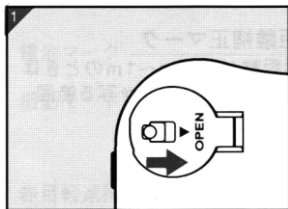
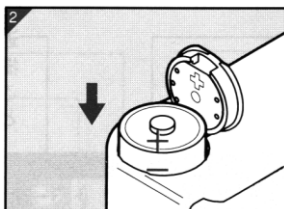
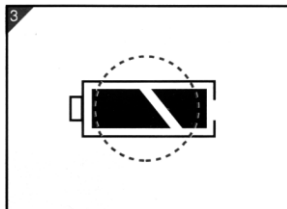
三脚穴

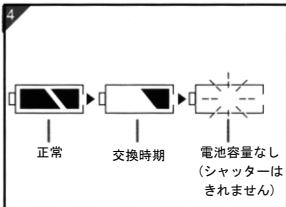
オートデート切替え・修正スイッチ

ストラップの取付け方

ストラップ取付部にストラップ先端の細いヒモの部分を通し、通したヒモの輪にもう一方のストラップの端を通して、引っ張ってください。

＊ 調節具の突起部は、オートデートの切替えや修正、フィルムの途中巻き戻しをするなど小さなスイッチを操作する時にお使いください。

撮影表示パネル

＊図は全ての液晶を点灯状態で示してあります。

ファインダーと表示ランプ

1．電池の入れ方

＊電池を入れた時、交換した時は必ずオートデートの修正をしてください。

ストラップ調節具の突起部で電池室カバーの開放ボタンを矢印方向に押すと、電池室カバーが開きます。

電池の＋、－を電池室内の表示に合せて正しい向きで入れ、電池室カバーをカチッと音がするまで閉じてください。

パワースイッチを押して電源ONにし、撮影表示パネルを確認してください。
電池マークが黒く点灯していれば、電池容量はOKです。

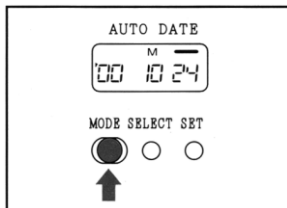
⚠警告	爆発して大けがの危険があります。電池を火の中に入れたり、ショート、分解、加熱、充電をしないでください。
⚠注意	発熱発火の危険があります。指定外の電池を使用しないでください。

使用電池は、リチウム電池(CR123Aまたは、DL123A : 3V) 1本です。

* 撮影途中で電池マークが2/3白くなったら、最後まで撮影してフィルムを巻き戻した後、電池交換してください。また、電池マークが全て白くなったときは、途中巻き戻しスイッチを押して、フィルムを巻き戻した後電池交換してください。
* 長期間の旅行や、たくさんの写真を撮影するときには、予備の電池をご用意しておくことをおすすめします。
* 連続してフラッシュ撮影すると電池容量が少ない表示になり、自動的にパワーOFFになることがあります。その場合、しばらく待ってから再度電源ONにしてください。電源ONにしたときに、電池容量が十分な表示になれば、そのまま撮影が続けられます。
* 寒冷地では電池の性能が低下しますので、カメラを保温しながらご使用ください。まれに、電池の容量が十分でも、電池の容量が少ない表示になることがあります。

電池交換するときのご注意

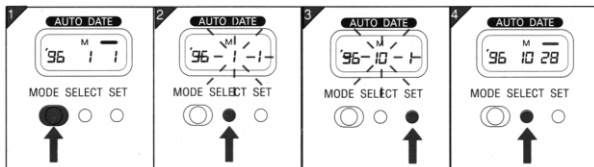
1) 電池交換するときは、必ず電源をOFFにしてから行ってください。
2) 撮影途中のフィルムが入っているときは、電池を手早く(20秒以内)入れ替えてください。
3) フィルムが入っているときに電池交換すると、電源をONにしたときに、フィルムカウンターが“1”になることがありますが撮影は続けられます。
4) フィルムの終わり近くで電池交換すると、フィルムカウンターが“0”のまま点滅することがあります。このときは、フィルムを途中巻き戻ししてください。

2．オートデート　日付・時刻を合わせてください。

2049年までの日付・時刻を記録し、画面に写し込むことができます。

オートデート切替え・修正スイッチのMODEスイッチを押すと、年月日、日時分、写し込みなしなどが選択できます。

＊ スイッチの操作は、ストラップ調節具の突起部で押してください。

デートが写し込まれる位置に、白や黄色などの明るい背景がくるとデート文字が見えにくくなる場合がありますのでご注意ください。

日付・時刻の修正方法(電池を初めて入れたとき、交換したときは必ず修正してください)

1 MODEスイッチを押して、年月日を表示させます。

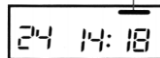
2 SELECTスイッチを押して、修正する数字を点滅させます。

3 SETスイッチを押して、点滅している数字を修正します。

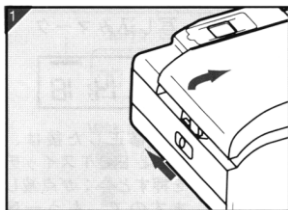
* SETスイッチは、合せたい数字になるまで数回押してください。
* 2 3 の操作を繰り返して、年月日を修正してください。

4 修正が全て終わったら、再度SELECTスイッチを押してください。数字の点滅が点灯となり、━の写し込みマークが現れて写し込み可能な状態になります。

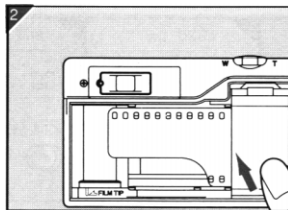
* 年月日修正後は必ず時刻も修正してください。

時刻の修正は、MODEスイッチを押して、日時分の表示にしてから 2 3 の操作を繰り返して修正してください。

* 分を修正した後は、SELECTスイッチを押すと、:が点滅しますので、もう一度SELECTスイッチを押してください。点滅が点灯に変わり写し込み可能な状態になります。
* 秒まで合わせたい場合は:の点滅時に時報のゼロ秒時に合わせてSETスイッチを押してからSELECTスイッチを押してください。

3．フィルムの入れ方

＊DXコードの付いた35㎜フィルムをご使用ください。

裏ぶた開放ノブを矢印(▲)の方向へ押し上げて、裏ぶたを開けます。

＊ カメラ内部のレンズに触れないようにご注意ください。

＊ フィルム確認窓を見ると、フィルムが入っているかどうかがわかります。

パトローネ(フィルムの容器)をカチッと音がするまで押し入れ、フィルムが平らに出るようにします。

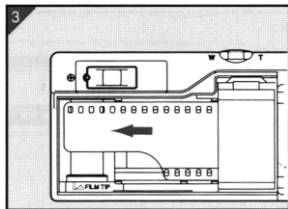
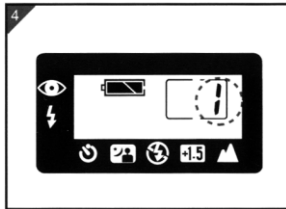
＊ DXコードの付いたフィルムを入れると、使用フィルムの感度(ISO25～3200)が自動的にセットされます。

＊ DXコードの付いていないフィルムの場合、感度は全てISO25にセットされます。

＊ リバーサルカラーフィルム(スライド用)は、下表のDX導入感度と同一感度のフィルムをご使用ください。

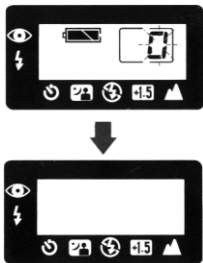
＊ コニカカラーフィルムのご使用をおすすめします。

使用フィルム感度のDX導入感度

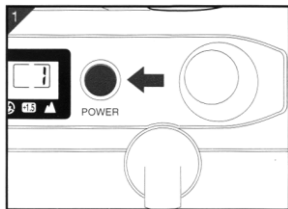
DX導入感度	25	50	100	200	400	800	1600	3200
使用フィルム感度（ISO）	25	50	100	200	400	800	1600	3200
	32	64	125	250	500	1000	2000	—
	40	80	160	320	640	1250	2500	—

フィルムを少し引き出し、先端をカメラ内部の先端マーク(▙FILM TIP)に合わせてください。

裏ぶたを閉じるとフィルムは1枚目の撮影位置まで自動的に送られます。

* 電池を初めて入れたときや電池交換した後にフィルムを入れた場合、裏ぶたを閉じてもフィルムが自動的に送られないことがあります。
  このようなときは、フィルムを入れて裏ぶたを閉じた後、パワースイッチを押して電源ONにしてください。レンズが撮影位置に繰り出された後、フィルムが1枚目まで送られます。

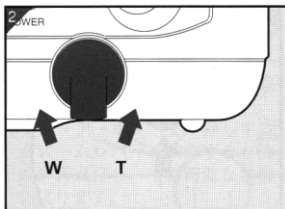
* DX導入感度がISO25にセットされるフィルムをご使用の場合は、フィルムを入れて裏ぶたを閉じた後に、電源ONにしてからシャッターボタンを1回押してください。フィルムが1枚目まで送られます。

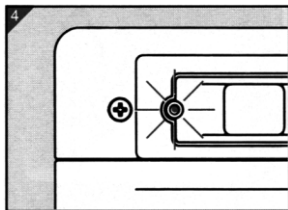
フィルムが正しく
送られていないときは…

フィルムカウンターが“ 0 ”のまま約５秒間点滅した後、液晶表示が全て消灯します。裏ぶたを開けて、フィルムを入れ直してください

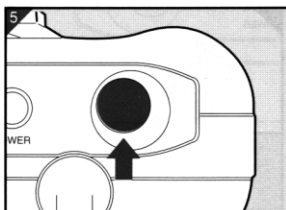
4．撮影方法(一般撮影)

＊すべての撮影に共通する基本的な撮影の手順です。

パワースイッチを押してください。レンズカバーが開き、レンズが撮影位置まで繰り出して、電源ONとなります。

＊ 電源ONで、撮影表示パネルの液晶が点灯します。

＊ 前面のレンズが汚れていたら、柔らかい乾いた布で軽く拭き取ってください。

ファインダーをのぞき、ズームレバーを押して構図を決めます。
Ｔ側に押すと望遠側(110㎜まで)、W側に押すと広角側(38㎜まで)に画面が移動します。希望の構図になった所で指を離して止めてください。

ピントを合わせたい被写体に、オートフォーカスフレームを合せます。

シャッターボタンを半押しすると緑ランプが点灯し、自動的にピントが合います。

* シャッターボタンは、半押しのままにしてください。

シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み、シャッターをきってください。

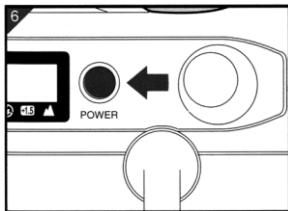
* 撮影が終わるとフィルムが１コマ自動的に送られ、フィルムカウンターの数字が１つ進みます。

日中撮影の距離

焦点距離	撮影距離
38 mm～110 mm	0．8 m～∞

* 撮影距離が0.8m～1mのときは、近距離撮影となります。

* シャッターをきったときにファインダーが動く場合がありますが、撮影は最初に決めた構図で行われます。

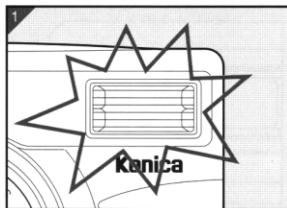
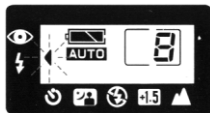
* シャッターボタン半押しで緑ランプが点滅したときは、被写体が近すぎてピントが合わない警告ですから、シャッターはきれません。シャッターボタンから指を離し、被写体から少し離れてシャッターボタンを押し直してください。

撮影が終わったらパワースイッチを押してください。
レンズが収納されて、レンズカバーが閉まり、電源がOFFとなります。

＊ 電源OFFで、撮影表示パネルの液晶は全て消灯します。

＊ 電源ONのまま約３分間操作をしないと、自動的にパワーOFFとなり、レンズが広角側(38㎜)の位置で停止し、撮影表示パネルの液晶が消灯します。シャッターボタンを半押しするかズームレバーを操作すると液晶が再点灯し、撮影可能な状態に戻ります。

＊ 撮影が終了したり、長時間撮影しないときは、パワースイッチを押して電源OFFにし、レンズを収納させてください。

5．自動フラッシュ撮影

＊暗いときはフラッシュが自動的の発光します。

暗い所でシャッターをきると、フラッシュが自動的に発光します。

＊ 撮影モード指標が、⚡マークの所で点滅しているときは、充電中ですからシャッターはきれません。

＊ フラッシュ発光のときのシャッター速度は、広角側で最長1/30秒まで、望遠側で最長1/60秒までとなりますのでカメラぶれにご注意ください。

＊ 人物のフラッシュ撮影には、赤目軽減撮影をおすすめします。

フラッシュ撮影の距離（ネガカラーフィルム使用の場合）

焦点距離	フィルム感度	撮影距離
３８ｍｍ	ISO100	０.８ｍ～　５.６ｍ
	ISO400	０.８ｍ～１１.２ｍ
１１０ｍｍ	ISO100	０.８ｍ～　１.９ｍ
	ISO400	０.８ｍ～　３.８ｍ

6．フォーカスロック撮影

＊被写体が画面中央から外れるときは、フォーカスロック撮影をしてください。

ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しにしてください。緑ランプが点灯し、ピント位置が固定されます。

＊ シャッターボタンは半押しのままにしてください。

＊ フォーカスロックと同時に露出も固定されます。

シャッターボタンを半押しのまま希望の構図に決め直し、シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み、シャッターをきってください。

＊ 半押しした指をシャッターボタンから離すとフォーカスロックは解除され、やり直しができます。

オートフォーカスが正しく働きにくい被写体

①光を反射しにくい黒いもの
②小さいもの、細いもの
③発光体
④光沢のあるもの
⑤雨、霧、煙等の実体のないもの

これらは測距しにくいので、等距離の測距しやすいものに向けてフォーカスロックをしてから撮影をしてください。
また、ガラス越しの撮影の場合は遠景撮影モードで撮影してください。

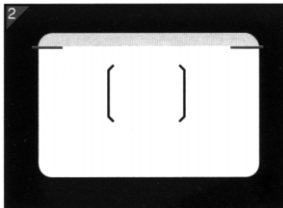
＊構図を決め直すときに、撮影距離が変わらないようにご注意ください。距難が変わったときは、やり直してください。

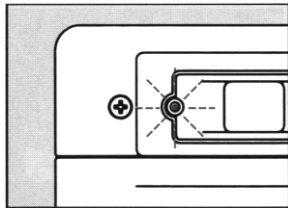
7. 近距離撮影

＊0.8mまで近づいて近距離撮影ができます。

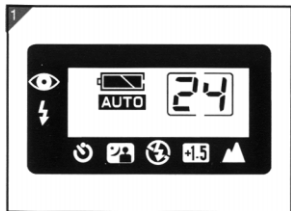
0.8m～１mに近づいてピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせます。

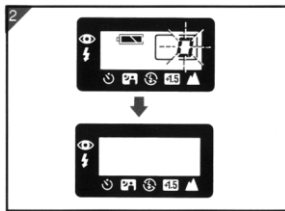
＊ レンズを望遠側にセットすると被写体がより大きく写ります。

＊ 三脚を使い、セルフタイマー撮影をすると、カメラぶれを防げます。

ファインダー内の近距離補正マークより下側で構図を決め、シャッターボタンを押してください。

＊ 構図上、被写体がオートフォーカスフレームから外れる場合は、フォーカスロック撮影をしてください。

シャッターボタンを半押しして、緑ランプが点滅したときは…

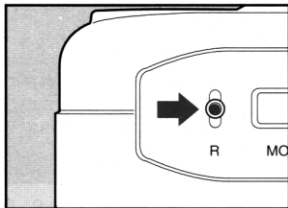
＊ 0.8mより近すぎて、ピントが合わない警告ですから、シャッターはきれません。シャッターボタンから指を離し、被写体から少し離れてシャッターボタンを押し直してください。

8．フィルムの取り出し方

フィルムを最後まで撮り終わると、フィルムが自動的に巻き戻しされます。

＊ フィルムカウンターは、巻き戻しに連動して減算表示していきます。

巻き戻しが完了すると自動的に停止します。
フィルムカウンターに“０”が点滅した後、液晶表示が消灯しますので、消灯を確認した上で裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。

＊ フィルムの規定枚数より多く撮影した場合には、最後の画面が少し重なることがあります。

＊ 写し終わったフィルムは、お早めにDP店にお持ちになり「コニカカラー百年プリント」とご指定ください。

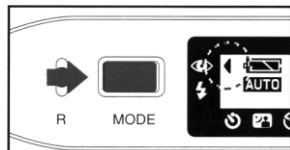
途中巻き戻しの方法

途中巻き戻し(R)スイッチをストラップ調節具の突起部で押すと、撮影途中のフィルムの巻き戻しができます。

＊ 巻き戻し後の手順は、自動巻き戻しの場合と同じです。

応用撮影

撮影モードの切替えによる、赤目軽減撮影、日中フラッシュ撮影、セルフタイマー撮影、ポートレート夜景撮影、フラッシュなしの撮影、＋1.5露出補正撮影､遠景撮影などの応用撮影およびリモコン撮影についての説明をいたします。

9．撮影モードの切替え

＊被写体に応じて最適な露出方法を選択できます。

モード切替えスイッチを押すごとに、撮影モード指標(◀)が、各撮影モードのマークを順次示し、循環します。

＊ 一度設定したモード(セルフタイマー以外)は固定され、そのまま撮影が続けられます。

＊ 撮影が終わったら AUTO (通常モード)に戻しておいてください。また、電源OFFにするとモードは解除され、再度電源ONにすると AUTO に戻ります。

＊ セルフタイマー撮影モードでは撮影毎にモードは解除され、AUTO に戻ります。

撮影モードの循環

AUTO 自動フラッシュ撮影
（フラッシュAUTOモード）

↓

赤目軽減撮影（ランプ点灯）
（フラッシュAUTOモード）

↓

日中フラッシュ撮影
（フラッシュＯＮモード）

↓

セルフタイマー撮影
（フラッシュAUTOモード）

↓

ポートレート夜景撮影
（フラッシュＯＮモード）

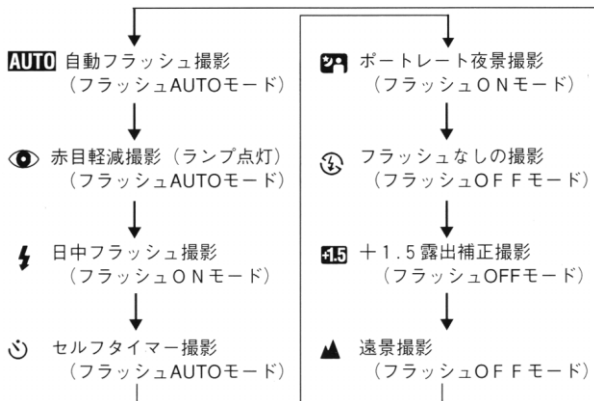
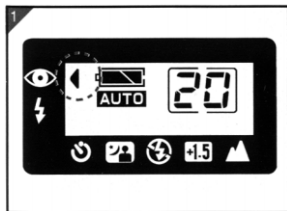
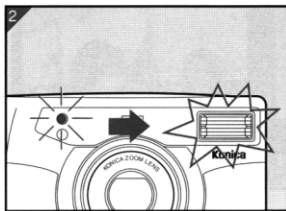
↓

フラッシュなしの撮影
（フラッシュＯＦＦモード）

↓

＋1.5 露出補正撮影
（フラッシュOFFモード）

↓

遠景撮影
（フラッシュＯＦＦモード）

10. 赤目軽減撮影 フラッシュAUTOモード

モード切替えスイッチを押して、撮影モード指標(◀)を◉マークに合せます。

シャッターボタンを押すと赤目軽減ランプが点灯した後にフラッシュが発光して撮影が終わります。

＊ 赤目経減ランプが点灯してからフラッシュ発光までは約0.5秒かかります。この間カメラを動かしたり、撮られる人が動かないようご注意ください。

＊ 明るい所ではフラッシュは発光しません。

赤目現象とは…

暗い場所で人物のフラッシュ撮影をしたときに、フラッシュ光が目の網膜に反射して目が赤く輝いて写ることがあります。これを赤目現象といいます。
このモードでは、赤目軽減ランプで瞳孔を小さくした上でフラッシュが発光しますので、赤目現象の発生を軽減します。

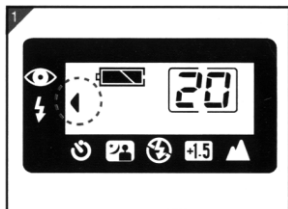
効果的な被写体

暗い場所での人物のフラッシュ撮影。

＊ 赤目軽減効果の度合いには個人差がありますが、赤目現象を起こりにくくするには、

① 撮られる人に、視線をランプの方へまっすぐに向けてもらう
② 撮りたい人になるべく近づいて撮影する

などしてください。

11. 日中フラッシュ撮影 ϟ フラッシュONモード

モード切替えスイッチを押して、撮影モード指標(◀)をϟマークに合せます。

日中フラッシュ撮影

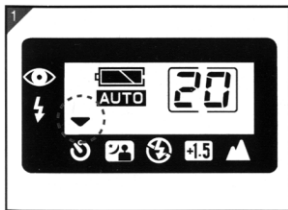
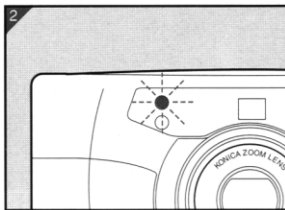
シャッターをきれば、明るい所でもフラッシュが発光します。

＊ フラッシュ発光のときのシャッター速度は、広角側で最長1/30秒まで、望遠側で最長1/60秒までとなりますのでカメラぶれにご注意ください。

フラッシュなし

効果的な被写体

①逆光の人物
②室内の窓際の人物
③曇り日の人物
④日陰の人物

12. セルフタイマー撮影 ⏲ フラッシュAUTOモード

モード切替えスイッチを押して、撮影モード指標(▼)を⏲マークに合せます。

シャッターボタンを押すとセルフタイマーがスタートし、約10秒後にシャッターがきれます。

＊ セルフタイマーのスタートと同時に赤目軽減ランプが約７秒間点滅した後、約３秒間点灯してシャッターがきれます。

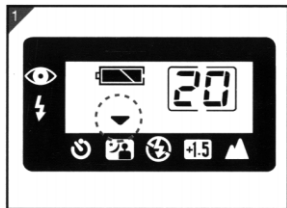
＊ 三脚をご使用ください。

＊ シャッターボタンはカメラの後側に立って押してください。前側からでは正しいピント、露出が得られません。

＊ フォーカスロックもできます。

＊ セルフタイマーの作動をキャンセルしたいときは、パワースイッチを押して電源をOFFにしてください。

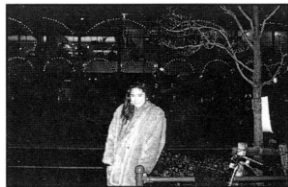
＊ 撮影終了でモードは解除されます。続けてセルフタイマー撮影する場合はセットし直してください。

13. ポートレート夜景撮影　フラッシュONモード

モード切替えスイッチを押して、撮影モード指標(▼)をマークに合せます。

ポートレート夜景撮影

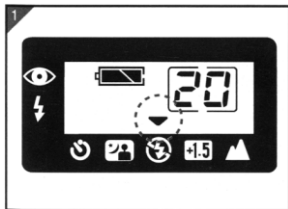
シャッターをきれば、最長約１秒までのスローシャッターによるフラッシュ撮影ができます。

＊ シャッター速度が遅くなりますので、カメラぶれを防ぐために三脚をご使用ください。
　 また、撮影中は撮られる人も動かないようにしてください。

＊ 被写体が動いているときは、ぶれて写ります。

自動フラッシュ撮影

効果的な被写体

①夜景をバックにした人物
②夕暮れをバックにした人物
③バックにフラッシュ光が届かない
　室内の人物

14. フラッシュなしの撮影 フラッシュOFFモード

モード切替えスイッチを押して撮影モード指標(▼)を に合せます。

スローシャッターによる撮影

シャッターをきれば、最長約１秒までのスローシャッターによるフラッシュ発光なしの撮影ができます。

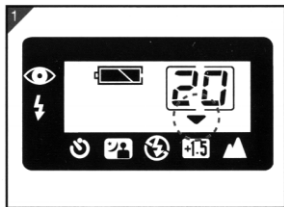
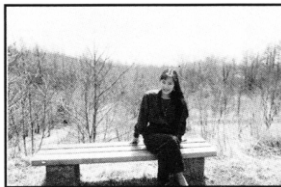
＊ 暗い場所ではシャッター速度が遅くなりますので、カメラぶれを防ぐために三脚をご使用ください。

効果的な被写体

① フラッシュ使用が禁止されている場所での撮影(美術館など)

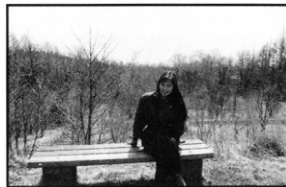
② 都会の夜景

③ 日没時の風景

15. ＋1.5露出補正撮影　+1.5 フラッシュOFFモード

モード切替えスイッチを押して、撮影モード指標(▼)を+1.5マークに合せます。

＋1.5露出補正撮影

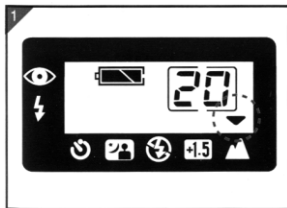
シャッターをきれば、標準より約1.5絞り明るい自動露出撮影ができます。

＊ 暗い場所ではカメラぶれを防ぐために三脚をご使用ください。

＊ フラッシュは発光しません。

露出補正なしの撮影

効果的な被写体

①画面全体を明るく仕上げたいとき
②スキー場の人物
③逆光の人物
④白バックの人物
⑤明暗コントラストが強い建物の暗部を明るく写したいとき

16. 遠景撮影

ガラス越しの風景を遠景撮影

一般撮影

モード切替えスイッチを押して、撮影モード指標(▼)を▲マークに合せます。

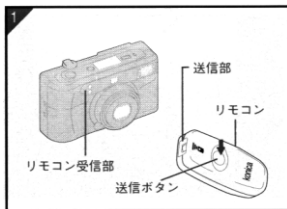
オートフオーカスフレーム内の被写体に関係なく、遠景にピントのあった撮影ができます。

＊ 夕・夜景など暗いときの撮影はシャッター速度が遅くなりますので、カメラぶれを防ぐために三脚をご使用ください。

＊ フラッシュは発光しません。

効果的な被写体

①遠景撮影
②ガラス越しの風景

17. リモコン撮影　＊カメラから離れて撮影することができます

リモコンの送信部をカメラの受信部に向けて、送信ボタンを押すと赤目軽減ランプが３秒間点滅した後、シャッターがきれます。

＊ 自動パワーOFFの状態では受信されません。

＊ セルフタイマー以外の全ての撮影モードで、リモコン撮影ができます。

＊ 三脚をご使用ください。

＊ 受信可能距離は、約５m以内(正面)です。

＊ リモコン受信部に太陽や蛍光灯などの光が強く当たっているとき、或いはインバーター式蛍光灯が近くにあるときはリモコン撮影できないことがあります。
そのようなときは、セルフタイマー撮影するかカメラを移動させてください。

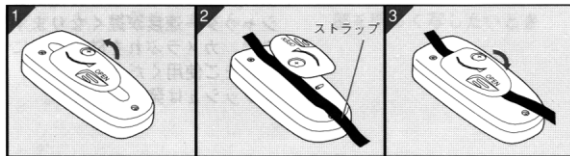
＊ リモコンには電池が入っています。
撮影ができなくなったら、電池交換してください。リモコン裏面にある小さな＋ネジ2本を外すとリモコンが２分割でき、電池(CR2025)交換が可能です。

⚠ 警告

爆発して大けがの危険があります。リモコンを火の中に入れたり、加熱しないでください。

リモコンの取付け方

＊ リモコンは、ストラップに取付けることができます。

＊ 取外す場合は、逆の手順で行ってください。

おもな仕様

＊下記性能については当社試験条件によります。
＊製品の仕様、外観については予告なく変更することがあります。

形式	：レンズシャッター式ズームレンズ付ＡＦ全自動３５ｍｍカメラ•
画面サイズ	：２４×３６ｍｍ
レンズ	：コニカズームレンズ３８ｍｍ Ｆ３.６～１１０ｍｍ Ｆ１０.６（５群６枚）、レンズカバー付
パワースイッチ	：電源ＯＮでレンズカバーが開きレンズが繰り出す、電源ＯＦＦでレンズが収納されレンズカバーが閉じる、電源ＯＮのまま約３分間操作をしないと自動的にパワーＯＦＦ
シャッター	：絞り兼用プログラム電子シャッター、電磁レリーズ、約１秒～約１/３００秒
焦点調節	：赤外線ノンスキャンアクティブ式自動焦点、撮影範囲：０.８ｍ～∞、撮影範囲外レリーズロック（緑ランプ点滅）、フォーカスロック可能、遠景撮影可能
露出調整	：ＣｄＳ受光素子使用のプログラムＡＥ、中央重点測光
露出連動範囲	：（ＩＳＯ１００）ｆ＝３８ｍｍ ＥＶ４～ＥＶ１６、ｆ＝１１０ｍｍ ＥＶ６.８～ＥＶ１６
フィルム感度	：自動設定（ＩＳＯ２５～ＩＳＯ３２００）
ファインダー	：実像式ズームファインダー、オートフォーカスフレーム、近距離補正マーク、ファインダーわきに緑ランプ（点灯：ＡＥ・ＡＦロック、点滅：近距離警告）
フラッシュ	：手ぶれ限界の低輝度時に自動発光するフラッシュマチック機構、連動範囲・（ＩＳＯ１００）ｆ＝３８ｍｍ ０.８ｍ～５.６ｍ、ｆ＝１１０ｍｍ ０.８ｍ～１.９ｍ、発光間隔・約６秒

モード切替え	：自動フラッシュ撮影、赤目軽減撮影、日中フラッシュ撮影、セルフタイマー撮影、ポートレート夜景撮影、フラッシュなしの撮影、＋１.５露出補正撮影、遠景撮影の各モードを選択可能（撮影表示パネルに表示）
セルフタイマー	：電子式、作動時間・約１０秒、赤目軽減ランプが約７秒間点滅した後に約３秒間点灯、途中解除可能
リモコン	：赤外光利用の専用リモコンシステム、送信ボタンで始動、受信可能距離約５m以内（正面）、電池CR２０２５・３V　１個、電池寿命約１０，０００回
フィルム給送	：電動式、裏ぶたを閉じるとスタートするオートローディング、自動巻き上げ、フィルム終了でオートリターン、巻き戻し終了後自動停止、途中巻き戻し可能
フィルムカウンター	：順算式、撮影表示パネルに表示
オートデート	：液晶表示式デジタルウォッチ内蔵、２０４９年までの年月日・日時分・月日年・日月年を表示、写し込みなしも選択可能、秒単位まで修正可能、月差・±９０秒以内
使用温度範囲	：－１０℃～＋５０℃
電池寿命	：５０％フラッシュ発光のとき約１５本（２４枚撮りフィルム）
電源	：リチウム電池（ＣＲ１２３ＡまたはＤＬ１２３Ａ・３Ｖ）１本
大きさ	：１１９×６７.５×５５ｍｍ
質量（重さ）	：２６０ｇ（電池別）